

1 開催概要

(1) 日 時 令和8年5月21日(木) 午後7時00分から午後8時00分まで

(2) 場 所 本庁舎6階災害対策本部事務局室

(3) 出席者

①委員(川崎市地域医療審議会災害時医療体制検討部会委員) 8名

原田俊隆委員、小泉実意子委員、井上潤一委員、土屋光正委員、下澤信彦委員

(Web参加) 三上翔平委員、矢尾淳委員、田中拓委員

②オブザーバー

川崎市病院協会、川崎市看護協会、川崎市薬剤師会、川崎市助産師会、KAWASAKI-DD、株式会社スズケン、神奈川県健康危機・感染症対策課、川崎協同病院、日本鋼管病院

③市関係者及び事務局

こども未来局庶務課、危機管理本部

各区役所：川崎市、中原区、高津区、麻生区

(4) 事務局

健康福祉局保健医療政策部 砂川部長、林担当部長

災害保健医療対策課 高橋課長、川島課長補佐、荻野担当係長、今井担当係長、内田主任

総務部危機管理・災害福祉担当 中島担当課長、佐藤担当係長

(5) 会議の公開

公開(傍聴者0人)

2 議題

(1) 令和8年度 各種訓練・研修等の年間スケジュールについて

(2) 令和8年度 災害時病院連携訓練について

(3) 災害福祉の推進体制及び課題と今後の取組について

(4) その他

3 議事概要

(1) 開会・挨拶

高橋課長より、開会の挨拶及びオンライン参加に係る留意事項について説明があった。続いて、砂川保健医療政策部長より、「直近でも震度5弱以上の地震が7回発生しており、季節的にも風水害が発生しやすくなる時期でもあるため、訓練・研修をとおして災害のイメージを膨らます必要がある。今回、訓練・研修スケジュール等について御報告させていただくので、忌憚ない御意見を頂戴したい。」との挨拶があった。

また、委員の任期について、令和8年4月1日から令和10年3月31日までの2年間であることを確認し、部会長の選任(互選)について、昨年度に引き続き原田委員に部会長として御対応いただく旨、事務局より提案し、各委員の了承を得た。原田部会長より「今期においても部会長を務めさせていただく。各委員ともに御多忙の中お集まりいただき、ありがとうございます。またこれからの2年から御協力をお願いしたい。」との挨拶があった。

(2) 議事

ア 令和8年度 各種訓練・研修等の年間スケジュールについて

高橋課長より、資料1に沿って訓練・研修等実施計画の説明があった。概要は以下のとおり。

【概要】

- 災害医療コーディネーター会議は年3回を予定し、2回目以降は別途御案内する。
- 保健医療調整本部訓練を下記内容にて実施した。
 - ・実施日：令和8年5月14日（木） 9時30分～12時00分
 - ・実施方法：災害時安否確認訓練と同時開催。研修形式にて発災時対応等解説後実働訓練。
 - ・内容：保健医療調整本部要員の安否確認及び初動班による本部立ち上げ。
- 災害時病院連携訓練について、議事2において説明。
- 危機管理本部主催訓練として、10月25日に中原区にて市総合防災訓練を実施予定。
- 災害時情報管理研修について、市向け、区向け併せて5回開催予定。
- DMAT隊員養成研修は、令和9年1月29日に開催予定。

質疑では、以下の意見・確認がなされた。

- ・原田部会長より「訓練スケジュールは確定し次第、早めに委員へ共有願いたい」
- ・矢尾委員より「市総合防災訓練の計画等進捗状況はどうなっているか」との質問があった。
⇒危機管理本部と詳細な打ち合わせが出来ておらず、現状は開催日と担当区を把握しているのみ。
⇒再度矢尾委員より「先日、中原区役所から当院（関東労災病院）へ訓練実施の挨拶があったが、職員の勤務調整等もあり、早めに動きたいので、情報共有をお願いしたい」
- ・川島課長補佐より「中原区役所等へ訓練の子細等を確認の上、フィードバックする」

イ 令和8年度 災害時病院連携訓練について

荻野担当係長より、資料2に沿って訓練実施計画の説明があった。概要は以下のとおり。

【概要】

- ・実施日：令和8年12月13日（日）午前
- ・実施方法：事前研修と実践訓練の二段階で実施。実践訓練については、上記日程にて南北同時開催。
事前研修は、実践訓練の約1か月前に災害時レベルに合わせて実施。アーカイブ配信予定。
- ・昨年度第3回の当会議に委員よりいただいた意見と市内病院向けに実施した実施日程に関するアンケートの結果を参考に、上記内容での実施を検討し、市内DMAT隊員への訓練ファシリテーター依頼については、小野DMAT調整担当課長と調整の上、連絡させていただく予定。

質疑では、以下の意見・確認がなされた。

- ・井上委員より「勤務時間としての取扱いや数少ない休日ということで考えると難しいところでもあるが、年一回の訓練なので、可能な限り協力したい。」
- ・下澤委員より「井田病院は、例年、当該訓練に出られるものは全員参加ということで対応している。」
- ・土屋委員より「職種により勤務内や時間外での調整をしてもらっており、問題なく参加できている。」
- ・三上委員より「早めに周知していただければ調整可能なので、上記日程で対応を調整していく。」
- ・矢尾委員より「職員の参加調整は問題ないと思うが、実践形式というものがイメージできていない。
以前のように本部を立てて行うのか、昨年度のような討議形式で行うかによって人員配置を考えていると思う。訓練内容の詳細は、小野DMAT調整担当課長が検討中ということで良いか。」

⇒高橋課長より、お見込みのとおりである旨の回答。

⇒再度、矢尾委員より「昨年度のように市内の各院へのファシリテーター派遣を中心にして欲しいのか、自院本部の参加を中心にするかで参加職員の調整も変わってくるため、早めに調整し教えて欲しい。」

- ・原田部会長より、「委員の意見も踏まえ、訓練実施にあたっての詳細については、調整でき次第、早急に情報共有いただきたい。」との意見があった。

ウ 災害福祉の推進体制及び課題と今後の取組について

総務部 佐藤災害福祉担当係長より、資料3に沿って災害福祉の推進体制等についての説明があった。

【概要】

- ・近年の災害においては、高齢者や障がい者等要配慮者への必要な支援が行われない結果、二次被害が生じており、福祉ニーズへの対応が喫緊の課題。
- ・令和8年度より健康福祉局総務部危機管理担当に並列で災害福祉担当を設置し、社会福祉職、保健師を配置し、医療・福祉の専門的視点から災害福祉課題に取り組む。
- ・主な課題は2点あり、1点は福祉施設の継続支援と災害時における役割。もう1点は在宅支援リソースの確認や在宅要支援者への安否確認・支援などの在宅支援者対応。在宅の要支援者は約47,000人。
- ・その他、外部支援の受け入れや区役所との役割分担などの課題がある。
- ・「地ケアを止めるな」を念頭に、ルールとツールの構築と全体共有を進める。

質疑では、以下の意見・確認がなされた。

- ・小泉委員より「市として施設機能と入所者数の把握は出来ているのか。施設ごとでの対応にばらつきがあることは望ましくないため、指導的なことも今後は考えていくのか。」
⇒佐藤係長より「今後はそのような点も含めて検討していきたい。」と回答。
- ・田中委員より「各施設の状況が把握できていないため、皆で検討できるような下地がこれからできていくという認識である。」
- ・下澤委員より「在宅診療所は病院より考え方にばらつきがあり、施設も独自の考え方が多い。全国でも先進的な取組で茫洋としているが、必要な取組なので、是非協力させていただきたい。」
- ・土屋委員より「公的のものとして施設基準や定義というのは、整理されているということで良いか。救急で対応する際に、施設によって対応にばらつきを感じる事が非常に多く、検討課題は多い。」
⇒佐藤係長より「介護老人保健施設や介護老人福祉施設の定義や施設基準は法定化されている。」
⇒原田部会長より「施設といってもどこまでを指すのが不明瞭なので、定義づけの部分からしっかりと検討していただきたい。」
- ・三上委員より「災害時において医療や施設の機能やリソースは落ちてしまう中で、保健や福祉と協力し合うことは大事な考え方なので、取り組みとしては素晴らしい。」
- ・井上委員より「災害福祉の専門部署の設立というのは、全国でも前例はあるのか。」
⇒中島担当課長より「昨年度、神奈川県が設置した際に県単位で全国初とされており、市単位では本市が初と思われる。」
⇒井上委員より「在宅の要支援者は47,000人ということで、ほとんどが訪問診療や訪問介護を受けており、在宅の医療機関と協力していく必要がある。」
⇒中島担当課長より「在宅の要支援者については、安否確認だけでなく、今後のサービス利用可否等についても把握しなければならないと認識している。」
⇒井上委員より「施設はスクリーニングをかけて洗い出し、そこにDMATを投入して状況把握し、支援を入れるなどの動きが能登ではあった。DMATは始まったばかりで研修というのもまだあまりな

いので、川崎市としてはどうやって行くのか。また、DHEATも外部から入ってくるので、うまく連携していくことが必要。保健師は災害時に非常に戦力になる。そのような方々と日ごろから接点をもっていることが災害時に大事かと思う。」

- ・矢尾委員より「新型コロナウイルス感染症の流行当時、元々施設からは医療についてはほぼ病院に全委任されるようなことが多かったが、医療が逼迫したことでDMAT等を投入しつつ、施設での一定の対応をお願いしていた。あれから施設の現場は、新型コロナウイルス感染症流行時以前のような形に戻ってしまったのか、下澤委員に現場感を伺いたい。」

⇒下澤委員より「温度差があるように感じる。在宅にしても自分達で利用者に対応しなければとっているところは有り、施設にしても在宅にしても底上げが必要。」

⇒林担当部長より「新型コロナウイルス感染症の流行以後、各施設は連携医療機関の設定が必要となったが、複数の施設が同一医療機関と契約しており、実際の意味で協力体制を結ぶのは本当に難しい印象。」

⇒井上委員より「コンタクトポイントができたことは大きく、まずはここに相談すればという部署があることは非常に良いことだと思う。」

⇒原田部会長より「前例がないところで、先頭を切るような形で川崎が取り組むことはいいことなので、頑張ってください。このことは市だけで対応できるものではないし、各区も一体になる必要があるので、災害福祉を成り立たせるため協力をお願いしたい。」

エ その他

- ・井上委員より「今年度に入って扇島の事故や電車内でスプレーがまかれた事案等があったが、こういった事案の情報共有やスイッチを入れるのをどうしたらよいかと考えている。非公式のLINEやMCSで軽い連絡を取ることも有るが、セキュリティ面も含め別手段を検討する必要がある。メール転送だと把握するまでに時間がかかることも有る。誰が使うのか、何をを使うのか、どういう情報を扱うのかを整理していきたい。」

⇒原田部会長より「各委員も他の会議に参加されて、方々から連絡が来ると整理することも難しくなったりするので、なるべく統一してもらい、取り決めしてもらえるとありがたい。」

⇒砂川部長より「一旦、事務局で持ち帰らせていただいて検討していきたい。」

- ・高橋課長より「ゆるやかな輪番制」について説明。発災時における災害医療コーディネーターの本部への参集について、資料を以て解説し、委員からの了承を得た。
- ・議事録署名人の設定について、原田部会長より井上委員を指名・依頼し、了承を得た。

(3) 閉会

高橋課長より、次回開催及び議事録確認手続きについて説明があったのち閉会した。

以上、会議を記録し、その内容に相違ないことを証するため、ここに署名する。

議事録署名人 井上 潤一